

第7回【手賀沼親子自然観察会】

主催：手賀沼水生生物研究会

：手賀沼流域フォーラム

共催：全国ブラックバス防除市民ネット!

協力：美しい手賀沼を愛する市民の連合会

日時：2011年10月1日（土） 10：00～12：00

天気：曇り

参加者数： 56名 （子供 29人、大人17人）

スタッフ：10名



講師：萩原さんのお話

「手賀沼そして北総のお魚たち」



タモ網で 「よっ！」



とった魚を観察



エビがいっぱい取れました。(ヌマエビ、スジエビ、テナガエビ)



観察会初 タウナギ と ヨシノボリ



ヤゴもいっぱい取れました(コシアキトンボヤゴ、ギンヤンマヤゴ)



大きなギンヤンマヤゴ





講師：左村さんのお話 手賀沼・ヒドリ橋付近の秋の植物

【観察会の内容】

第7回 手賀沼親子自然観察会

2011年10月1日(日)、手賀沼水生生物研究会(通称・手賀水研)では、恒例の「手賀沼親子自然観察会」を、大津川河口にかかるヒドリ橋近くの用水路にて開催し、今年もたくさんの親子のみなさん(総勢56名)が参加してくれました。

当日は薄曇りながら暖かく、絶好の「ガサガサ(網での魚とり)日和となりました。10時、予定通り、手賀水研の鈴木盛智代表のあいさつで幕を開け、続いて、今日の講師の魚類研究者、萩原富司さんのお話、『手賀沼そして北総のお魚たち』が始まりました。

利根川流域の谷津やその下流に広がる平野(手賀沼をふくむ)には、30種もの魚がいること、10種は外来種だけれども、それ以外の魚は遺伝子を調べると、関東特有の魚が多いこと、源流域のひとつである亀成川(印西市)には、希少種をふくむたくさんのがんや水生昆虫(ヤゴなど)が今日なおいること、現在、河川改修などにさらされているこの源流域を守れば、手賀沼にもかつていた生き物たちが復活する可能性があること——といったお話に、参加者のみなさんが興味深く耳を傾けました。

最後に萩原さんは、「魚とりは生物多様性を体験する楽しい作業」と話し、そのルールを説明しました。①安全を確保する(落水、毒虫、けがに注意)、②ルールとマナーを守る(漁業権があつたり生き物が保護されていることがある)、③飼うなら最後まで面倒を見る(放流すると遺伝子汚染が起きるので放流しない)、の3つです。

その後、参加者がそれぞれモンドリ(かご網)を用水路にしあげ、ガサガサと釣りによる魚とりを開始。お子さんだけでなく、若い親御さんも祖父母のみなさんも夢中になり、とれた魚は魚種別に小さな水槽に入れて、みんなで眺めました。「この魚はなんという名前?」、「こっちのお魚を食べたりしない?」など、大いにぎわいました。

続いて、環境レンジャーで植物にくわしい左村義弘さんが、「手賀沼(この近辺)で見られる植物」についてお話をしました。ヨシ、マコモ、ヒメガマなどの生えている場所は水深が違い、植物をみただけでその場所のおよその水深がわかること、また、ヒドリ橋周辺(大津川流域)にはタデ科の植物が目立って多いこと、イネ科は手賀沼周辺全体に多いことなどを、当日、みずから集めた植物を見せながら説明。身近な植物について初めて聞くお話を驚きの声が上りました。

最後に、参加者が自分でしあげたモンドリを引き上げて、かかった魚介類を種別に水槽に入れ、観察会は終了。希望者は「最後まで飼うこと」を約束して、とった魚を持ち帰りました。

終了時には「こんな催しがあったなんて知らなかった」など多くの喜びの声をいただき、中には、帰宅後、「さっそく水槽を購入し、飼育をはじめました。子どももともと魚類に興味があり、図鑑でいろいろ調べたり楽しんでいます」とのメールをくださった方も。手水研メンバーにとっても嬉しい1日となりました。

手賀沼大津川河口、ヒドリ橋付近の水路で観察できたお魚たち

在来種:モツゴ、ギンブナ、ドジョウ、メダカ、ヌマチチブ、ヨシノボリ、タウナギ

国内外来種:タモロコ、

国外外来種:タイリクバラタナゴ、ブルーギル

甲殻類:スジエビ、テナガエビ、ヌマエビ

昆虫類:ギンヤンマヤゴ、コシアキトンボヤゴ、イトトンボヤゴ、コガムシ